

背景・目的

日本文学科では2年次専門科目「日本文化史」において能狂言、歌舞伎、文楽等日本の古典芸能について学んでいる。教室では視聴覚資料を駆使しつつ、折にふれて生の舞台に接する機会を提供し、受講者がより主体的、実感的に学ぶことができるよう取り組んでいる。さらに2012年度より授業の一環としてプロの能楽師によるワークショップ形式の特別講義を実施している。実演者から直接お話をうかがい、本物の能面や装束を見せていただき、あるいはそれらを試着させていただいたりすることで受講者の興味・関心は高まり、観るだけでなく自分たちも実際に能を学んでみたい、体験してみたいという声が聞かれるようになった。そこで2014年度はこれまでの取り組みに加え、能の実技体験講座を開設し、教育内容のさらなる充実を図ることとした。

実施内容

1. 「日本文化史 A・B」(2年次専門科目、特別企画の事前・事後指導を含め、前期は能狂言、後期は歌舞伎と文楽について学ぶ)
2. 特別企画①「能を学ぶ」～喜多流能楽師佐藤寛泰師による特別講義(6月11日、学内、「日本文化史」受講者および希望者、能面・装束の着付実演、謡体験など)
3. 特別企画②「能を観る」～喜多流喜章会「能への誘い」公演(11月10日、学外、「日本文化史」受講者および希望者、半能『八島』、仕舞『芦刈』)
4. 特別企画③「能を体験する」～佐藤寛泰師による能の実技体験講座(2015年2月16～18日、



学内、希望者、6回集中講座、能『唐船』謡と仕舞)

結果及び考察

「日本文化史」の全員参加企画(特別企画①②)が終了した段階で全受講者を対象に無記名アンケート調査を実施した(11月12日、出席者74名中62名回答、回収率83.8%)。特別企画①ではプロの能楽師の特別講義によって能の知識が「増えた」「大いに増えた」は92%、能に対する興味・関心が「高まった」「大いに高まった」は87%、講義内容に「満足している」「大いに満足している」は89%と軒並み好評だった。特別企画②「能を観る」に対する受講生の満足度は「満足」「とても満足」が81%、興味・関心が「高まった」「大いに高まった」は82%という結果が得られた。こちらもたいへん好評だったが、能のことをある程度学んだ段階では初心者向けの公演に物足りなさを感じる向きもあり、より本格的な舞台への期待が高まっている様子がうかがえた。

特別企画③、日文史上初となる能の実技体験講座は、まだ「日本文化史」を受講していない1年生を含む希望者18名が参加(2/3が「日本文化史」受講者)、最終日に成果発表会を行なった。講座終了後の無記名アンケート(回収率100%)では参加者全員が「たいへん満足した」「とても意欲的に取り組めた」と回答。また興味・関心が「大いに高まった」、「また参加したい」が参加者の2/3を占めるなど、自ら「参加・体験」することで得られた達成感の高さが学びの意欲をより一層高めていることが確認された。

